



すてっぷあっぷ



© 裾野市

◆各国におけるジェンダー・ギャップ 日本は…

世界経済フォーラムが 2018 年 12 月、「The Global Gender Gap Report 2018」を公表し、その中で、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index : GGI）を公表しました。この指数は、経済、教育、健康、政治の 4 つの分野のデータから作成され、0 が完全不平等、1 が完全平等を意味しています。2018 年の日本の総合スコアは 0.662、順位は 149 か国中 110 位（前年は 144 か国中 114 位）でした。（内閣府男女共同参画局 HP より抜粋）

このことから、日本は他国と比べればまだまだ男女不平等であり、男女共同参画を推進していく必要があることが伺えます。

順位	国名	値
1	アイスランド	0.858
2	ノルウェー	0.835
3	スウェーデン	0.822
4	フィンランド	0.821
5	ニカラグア	0.809
6	ルワンダ	0.804
7	ニュージーランド	0.801
8	フィリピン	0.799
9	アイルランド	0.796
10	ナミビア	0.789
12	フランス	0.779
14	ドイツ	0.776
15	英国	0.774
16	カナダ	0.771
51	アメリカ	0.720
70	イタリア	0.706
75	ロシア	0.701
103	中国	0.673
110	日本	0.662
115	韓国	0.657

ジェンダー・ギャップ指数（2018）主な国の順位

◆男女共同参画の視点からの「防災」をテーマに掲げた市民委員の平成 30 年度の主な活動を紹介します。

「男女共同参画視点の避難所運営ゲーム」を開催しました！

今期の活動テーマの「防災」にちなみ、希望のあった原区の防災訓練にて避難所運営ゲーム通称 HUG を行いました。ゲームの舞台が原区集会所であり、使用するカードも原区に合わせたものを使用することで、より実践的なものを目指しました。喫煙所の設置場所や、病気の方を考慮しての部屋割り、子どもたちの遊び場など次々と発生する問題に、協力して解決していく参加者たちの姿が見受けられ、発災時にこの経験が役立てばと感じました。一方で、男女共同参画が何か分からないなどの声もあり、男女共同参画の浸透の難しさを感じた一日でもありました。（勝又）



富岡第一小・南小・東小で職業講話を開催！



小学 4 年生へ職業講話をしていただく事業も 4 年目を迎えました。恒例の職業当てクイズから始まり、その後男性保育士さんと女性一級建築士さんから今の職業を選んだきっかけや苦勞を話していただきました。今回訪問させていただいた学校では、「自分の通っていた幼稚園や保育園に男性保育士さんがいた」と答えた児童の割合は 7 割近くになり、男性保育士さんも珍しくなくなってきました。



しかしながら、医学部入試における女性差別が問題になったり、女性議員が一人もいない市町村があったりと性による差別はまだあります。今の子ども達が社会に出る頃にはこのような差別が改善されていることを願います。（木邨）

サバイバルめし炊き、略してサバめし！

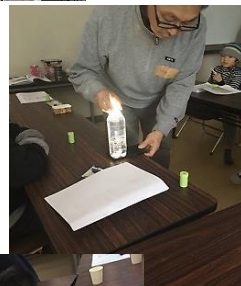
昨年に引き続き、裾野市地域地震防災指導員 菊池勇一氏による人気イベント「サバめし」が7/26と12/16の2回、南児童館で開催され、合わせて16名の子供たちが参加しました。

「サバめし」とは、サバイバル(困難な状況乗り越えて生き残ること)のためのめし炊きを略したもので、身に付けておくと非常時にはとても有効な手段として役立つことばかりです。

講座では、「熱中症にならないためには何に気を付ければ良いか」とか、「ゲリラ豪雨」や「水害」から身を守るにはどう行動すれば良いかなど、すぐにでも活かせる話や、菊池講師ご自身の体験談など笑いを交えて面白くお話しされ、子供たちも夢中になって聞いていました。

お楽しみは調理のコーナーで、毎回趣向を凝らした災害時調理法としてカップラーメンを水で作ったり、焼きそばやスイーツまで湯煎で作る方法を子供たちと一緒に実践しました。工作のダンボールイスは大好評で、お土産に持って帰るほどです！

この体験で得たものが将来活かされる場面が来なければいいと思う反面、いざという時に役に立ってくれると思います。(内田)



会長からひとこと(会長 三ツ石純子)

年の任期の活動を開始するにあたり、市民委員全員で意見を出し合い「男女共同参画の視点からの防災」に意識した活動を進めて参りました。その都度話し合いを重ねてきたからこそ、充実した活動になったと感じております。

近年、国際社会においても災害に強い社会の構築には、男女共同参画社会の実現が不可欠であると強調されております。様々な場面で男女共同参画の視点を持ち「地域を守り担う人」が増えていく・・・そんなまち「すその」になってほしいと思います。

2年の任期を終えるにあたり、市民委員各々が主体となり会の企画・運営を行えたこと、また、市民の皆さんに声を掛けて頂く機会が増えたことに対し、深く御礼申し上げます。

委員からひとこと

男女共同参画という言葉をもっと耳にしてから、かなりの年月が経ちますが自分の中でまだまだ理解が進んでいないような気がします。この4年間で学んだことを無駄にしないよう今後に活かしていきたいと思います。(木邨)

男女共同参画に参加活動する事で色々な繋がりができていく事のすばらしさを感じた2年間でした。まずは、気軽に参加していただきたいと思います。(山本)

男女共同参画という言葉の意味やその在り方について、じっくりと考えることのできた2年間になりました。男女共同参画という言葉がもっと幅広い世代に周知されるように、自らが行動していこうと思いました。(勝又)

男女共同により素敵な人生を歩むために、「無意識」の言動を再検討する必要があることを強く感じました！(坂田)

編集／裾野市男女共同参画推進市民委員会

発行／裾野市生涯学習課市民協働室(裾野市深良435番地 TEL992-6900)

(平成31年度からシビックプライド推進室になります)

